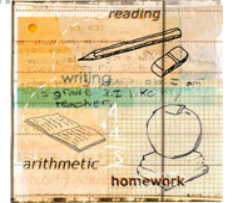




### 数学が困難67%、続いて英語37%・・・高1生学習アンケート(4月)から

飯山北高で、4月に行った学習アンケートの中の一部を紹介します。

学習に対して、ほとんどの生徒は意欲的に取り組んでいる(87%)が、数学に困難を感じている生徒が多い(67%)。大部分が運動部に加入(78%)し、クラブと両立していると感じる生徒が42%で、どちらともいえないが40%である。家庭学習は平日で1~2時間の生徒が42%、2~3時間の生徒が51%で、塾等には通っていない生徒がほとんどで(80%)ある。



また、二中の3年生を対象とした数学の学習に関するアンケート(4月実施)の結果を見ると、数学の授業が「わかる」、「ほぼわかる」が80%を超えている。習熟度、少人数講座で学習を進めている成果であろう。しかし、好きな教科として数学をあげている生徒は30%ほどで、嫌いな教科としてあげている生徒は40%以上になっている。また、数学の好きな分野としてあげているのが、「文字式や方程式」などの計算(43%)であり、嫌いな分野としてあげているのは「関数」である(62%)。家庭学習の時間はというと、平日で0.5~1時間の生徒が約30%、1~2時間の生徒が約50%である。



北高の1年生の全体的な印象としては、高校へ入学し、頑張っている勉強やクラブ活動に頑張っているが、特に数学では、進度が速く困難さを感じている生徒が多い。数学科では、理解を助け、学習内容の定着を促すように日々の家庭学習プリントや週末課題を出しているが、生徒たちは忙しい毎日の中で取り組みが大変なのだと思う。しかし、そこで頑張るようなたくましさや身につけて欲しいと願い、生徒を励ましながら学習に向かわせている。二中では日々の宿題の指導を丁寧に行っている。そこで身についた習慣を高校でも生かして行きたいと考えている。

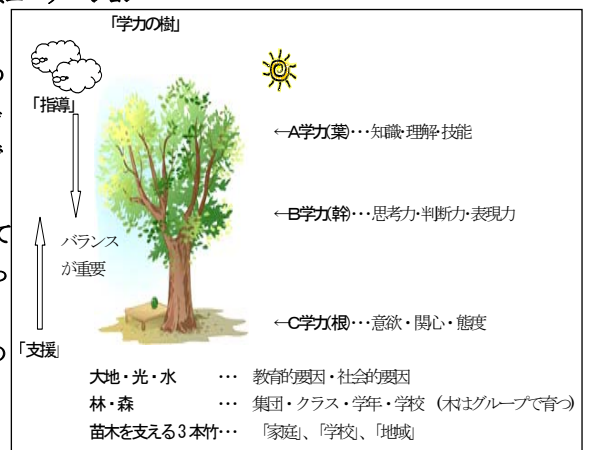
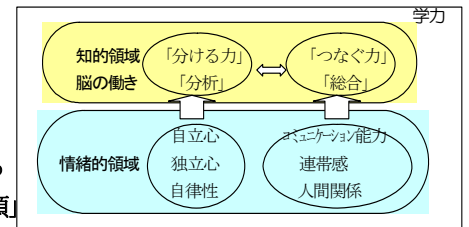
### 「学力」をどうとらえるか? 志水宏吉著『学力を育てる』(岩波新書)より

この本の中で、「力のある学校」として扱われている松原市布忍小学校・松原第三中学校を、5月28・29日に飯山市教委の山田悦祐教育主事、郡市校長会長の岩松義雄先生、二中の篠原先生、飯北の宮坂教頭、平塚、渡辺の6名で学校視察をしてきます。志水先生は、この2校の取り組みを学問的な視点から記述しています。視察では、学力向上をもたらしている具体的な教育実践を見聞きしてきますので、帰校後に、視察記としてこの通信で報告したいと思います。

また、志水先生はこの本の中で、学力について次のように記述しています。

「学力」には、「分ける力」(分析)と「つなぐ力」(総合)の2つの要素がある。学習活動には、両者のバランスが大事であるが、近年の学力低下を招いている1つの要因は、「つなぐ力」の衰退ではないか。さらに、『知的側面での「わかる力」と「つなぐ力」は、子どもの情意・行動的側面での「わかる力」と「つなぐ力」に密接にリンクしているのではないかと考えている。(右の図)つまり、子どもの「頭」の中で起こっていることは、「心」と「体」の中で起こっていることと裏表の関係にあり、コミュニケーション能力や社会性の低下が、まさに物事の間接性をとらえる力、考える力の低下をもたらしているのではないかと。そして、子どもたちの学力をどのように育てていくかを構想するためには、知的なトレーニングに偏った対処法を編み出すだけでなく、子どもたちが育つ場のあり方、家族やクラスメートとの人間関係の質を総合的に問い直していく必要がある、と提言している。

また、学力を樹にたとえ、右のように表している。樹は「葉」、「幹」、「根」が一体となってはじめて成り立つように、学力の3つの要素もそれらが有機的に結びつきあうことによっではじめて、統一体としての「学力」となる。したがって、「学力」を育てるには、知識・技能の習得を強調したトップダウン式の「指導」や、意欲・関心を強調したボトムアップ式の「支援」のどちらかに偏ってしまうと育たない。両者の適度なバランスが大切なのである。



#### 〈篠原Tの授業日誌から〉

「高校での授業」には、正直不安があった。授業の中で高校生と対面する経験が今までになく、高校数学は何十年ぶりに見るものだからである。ICの活動が始まって一ヵ月半、これらの不安も少しずつなくなっている。

毎日北高に行き思うことは、生徒の挨拶が気持ちがいいということ。廊下ですれ違う時は、ほとんどの生徒が大きな声で「こんにちは」と挨拶できる。また、私の担当している授業は全て午後であるにもかかわらず、全員が集中して課題に取り組んでいることがすごいと感じている。TTで演習をおこなっているが、誰ということもなくわからないときはサッと挙手をして教師を呼び、説明を求める。「わかりたい」「できるようにになりたい」という気持ちは、中学生も高校生も同じなんだなあと感じた。授業を通して気づいたことは、「分数の壁」があること。平方完成では、係数が分数になるとミスがどっと増える。これは、小学校・中学校でも言えることで、丁寧な指導とスパイラル的な指導の必要性を感じた。

